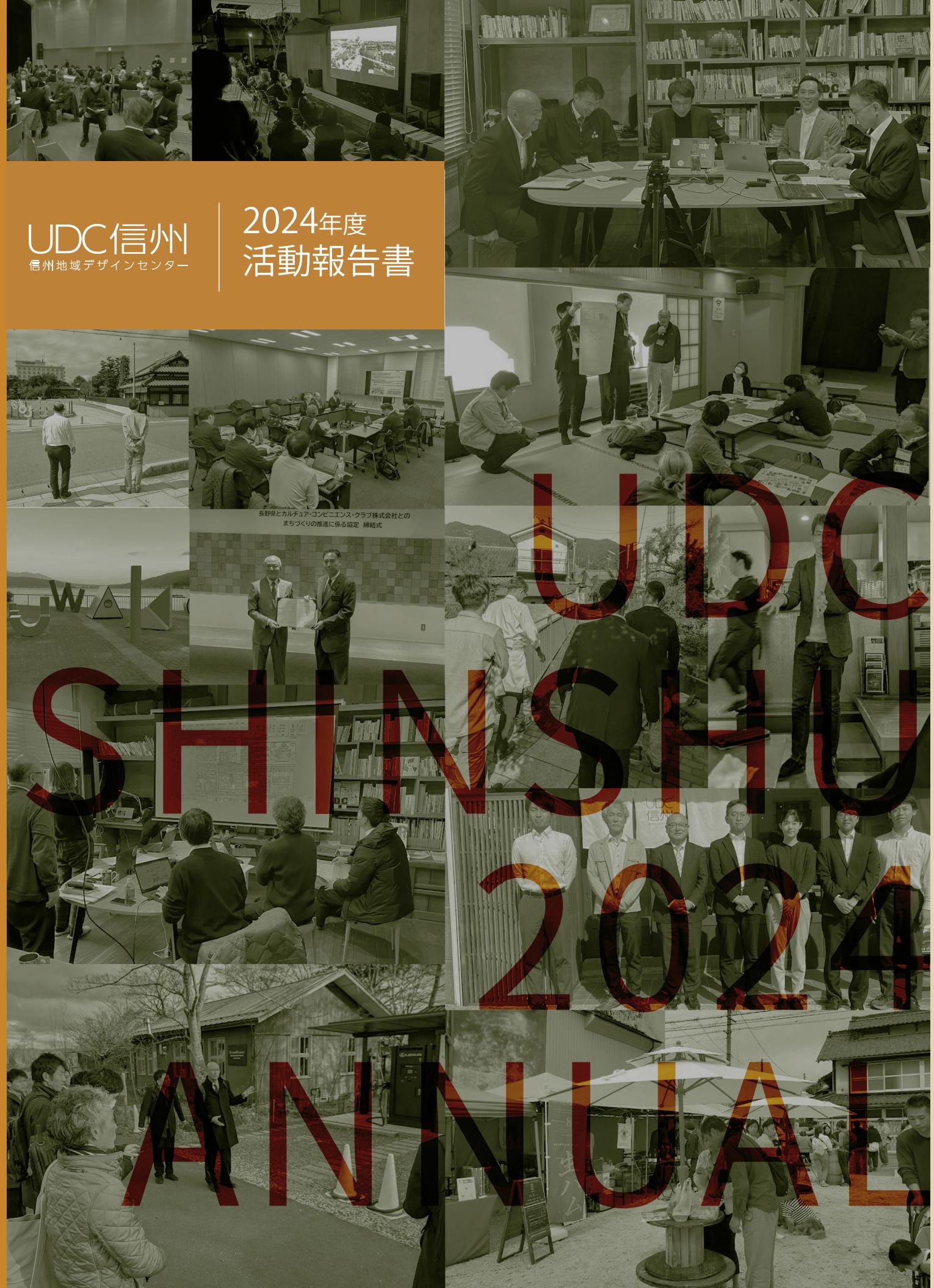


UDC信州
信州地域デザインセンター

2024年度 活動報告書





信州地域デザインセンター センター長

黒田 敏

令和6年8月には、UDC信州の開設から設立5周年を迎えることができました。

また、この度、令和6年度の取り組みをここに報告書としてまとめるこどもできましたこと、これまでの当センターの運営や活動等について、ご支援、ご協力を頂きました方々、共に推進してきた関係者の方々に重ねて厚く御礼申し上げます。

令和6年度の活動実績としては、3つの活動方針のうち「支える」では駅まち空間の活用、構想の基本方針の策定、グランドデザイン作成、社会実験など、県内20市町・20案件の取組みを支援させて頂きました。

また、全国のUDC組織の中で唯一の広域UDCとして、複数の市町村をまたぐ広域エリアでの取り組みとして、しなの鉄道沿線や諏訪湖周辺のまちづくりやレイクリゾート構想の基本方針作成などのプロジェクトを令和5年度に引き続き進めてまいりました。

特に、しなの鉄道沿線のプロジェクトについては、沿線の9市町について、市町職員、鉄道事業者、民間企業の方々とともに、しなの鉄道沿線の駅を中心とした駅まちのビジョンや実現に向けた検討会を行い、まずは4駅を対象とした現場調査による現状把握をおこない、課題やポテンシャル等の分析に基づく将来像などについての検討を深めてまいりました。

活動方針2つめの「育む」では、今年度初めて「実践型まちづくりセミナー」を、伊那市をフィールドとして、県全域からの行政職員はじめ、信州大学の学生を含む参加者約70名による1泊2日のセミナーを開催し、参加者から好評を頂いているところです。今後は、より実践的なセミナーなどの取組を進め、まちづくりの担い手育成と自治体の関連職員の方々のスキルアップに寄与してまいりたいと考えております。

活動方針3つめの「発信する」ではホームページやSNS、メールマガジンを通じて、県内外のまちづくりの動向とUDC信州の活動などの情報発信を進めてまいりました。

以上のように、開設から5年目に入り、支援内容もまちづくりの相談対応の段階から、具体的なプロジェクトとそれを担う体制づくり、ビジョンの具現化に向けた社会実験の実施など次のステージに移りつつあります。

UDC信州は、県内に住む人も訪れる人にとっても快適な空間がひろがることを目指して、これからも俯瞰的、広域的、そしてネットワークの視点を持ちながら、様々な方々と連携してまちづくり支援に取り組んでまいります。

多くの関係者の方々に改めて感謝申し上げますとともに、今後とも引き続きのご協力、ご支援をお願い申し上げます。

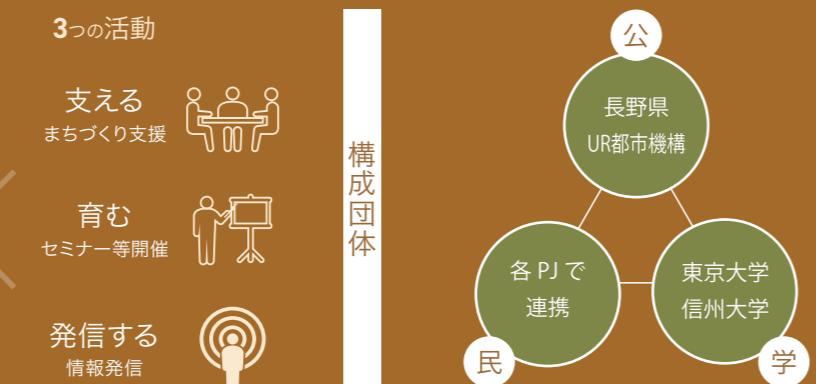
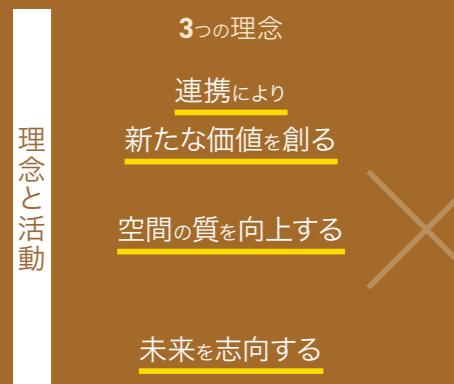
信州地域デザインセンターとは？

設立の目的

長野県内の都市においては、人口減少に伴う都市のスボンジ化が進み都市機能の維持が困難になっていること、「コンパクト+ネットワーク（立地適正化計画）」、「ウォーカブルシティ」、「スマートシティ」等の概念が掲げられる中、社会情勢の変化や価値観の多様化等により、まちづくりの専門化、高度化、多様化が進む一方で、小規模市町村も多く、専門性のある職員不足など市町村単独では対応が厳しい状況にあり、長野県のサポートに期待が寄せられていました。

このため、長野県が主体となって公・民・学が連携し市町村のまちづくりをサポートする広域型のまちづくり支援組織として、令和元(2019)年8月に信州地域デザインセンター(UDC信州)を設立しました。

UDC信州は、市町村が進めるまちづくりを支援する【支える】のほか、行政職員を対象としたまちづくりの人材の育成【育む】、県内外の情報を共有するための情報収集・情報発信【発信する】を行い、これらの活動を通じてまちづくりの「場」を生み出し、令和5(2023年)年度から始まった長野県の新総合5か年計画「しあわせ信州創造プラン3.0」にもとづく「住む人も訪れる人も快適な空間づくり」の実現に向けた取り組みを進めて行きます。



拠点紹介

UDC信州の活動拠点は、長野市の善光寺の門前、中央通り沿いにある、およそ100年前に建てられた歴史ある古民家を、当時の風情を活かしながら明るい空間にリノベーションした建物の2階です。室内には、まちづくりに関する書籍やまちづくり団体の活動の資料などがあり、自由に閲覧することができます。



※スタッフ不在時は施錠されていますのでご注意ください。

信州地域デザインセンターとは？	1
拠点紹介	1
センター長からごあいさつ	2
支える 活動報告・支援の状況（総括）	3 - 4
広域プロジェクト（PJ）	
しなの鉄道線沿線地域の駅まち空間創出PJ	5 - 8
レイクリゾート創造PJ	9 - 12
個別プロジェクト（PJ）	
諏訪湖周辺まちづくり戦略検討会PJ	13
/長野県、諏訪市、岡谷市、下諏訪町	
下諏訪グランドデザインPJ/下諏訪町	14
諏訪市未来PJ/諏訪市	15
小諸駅周辺魅力向上PJ/小諸市	16
千曲市総合運動公園基本構想PJ/千曲市	17
戸倉上山田温泉街活性化PJ/千曲市	17
長野中心市街地まちなか再生PJ/長野市	18
小海町コンパクトタウン強化PJ/小海町	18
主なPJのスケジュール・その他PJ	19 - 20
コラム	21
育む 活動報告	22
実践型まちづくりセミナー@伊那市	23 - 24
スマートシティスクール	25 - 26
UDC信州設立から5年を振り返って	27 - 30
発信する 活動報告	31
HP・SNS	32
おわりに	
UDC信州スタッフより	33 - 34

【令和6(2024)年度 総括】

ここでは、UDC信州の活動方針のひとつ「支える」について、令和6(2024)年度に行った主な支援の取り組みを紹介します。

●広域支援エリア

広域支援とは、複数市町村と連携して進めているプロジェクトです。令和6年度は、「しなの鉄道線沿線地域の回遊性向上プロジェクト」「レイクリゾート創造プロジェクト」「諏訪湖周辺まちづくりプロジェクト」の3案件があります。

●個別支援エリア

個別支援とは、単独の市町村と進めているプロジェクトです。令和6年度は20案件があり、中心市街地再生、公共施設・公有地活用、観光地再生、ビジョン作成等、市町村から寄せられた様々なテーマのご相談に対し、広域的視点を持ってサポートを進めてきました。



これまでの支援内容

鉄道沿線の回遊性向上／スマートシティの検討／移住促進・土地活用／駅前広場の整備／駅前広場の利活用／観光拠点の整備／観光地再生／空き地・空き家活用／景観計画の作成／公園の利活用／公共施設・公有地活用／住民主体のまちづくり／自転車活用・推進計画の実現／地域公共交通の検討／地方創生計画／中心市街地再生（ビジョン・駅前・商店街）／まちなかの回遊性向上／都市バス・立地適正化計画／都市計画道路の整備／道の駅整備

しなの鉄道線沿線地域の駅まち空間創出プロジェクト

しなの鉄道線沿線地域

しなの鉄道線沿線地域

プロジェクト概要

多くの観光客が訪れるしなの鉄道線沿線地域において「地域の顔である駅や駅周辺の空間を、地域住民や観光客等、来訪者にとって居心地が良く集いたくなる空間にしていくこと」を目的に、沿線自治体としなの鉄道、上田電鉄、CCC(株)、UDC信州で検討会議を設置し、各種検討を行っています。

基本情報

市町村名／軽井沢町、御代田町、佐久市、小諸市、東御市、上田市、坂城町、千曲市、長野市
人口（2025/3/1現在）／約800,000人（路線のある9市町合計）
面積／約2,409km²（駅のある9市町合計）
主な観光地／軽井沢高原、浅間高原、中山道5宿、懐古園、湯の丸高原、上田城、さかき千曲川バラ公園、戸倉上山田温泉、善光寺

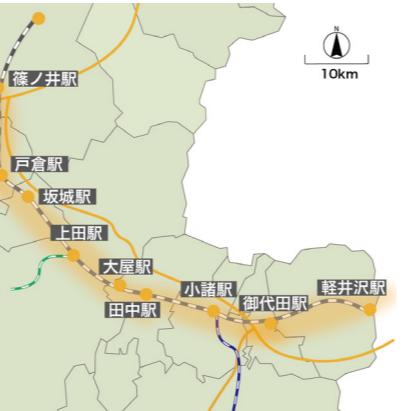


「駅まち空間検討会議」の様子

プロジェクト説明

しなの鉄道線沿線地域には、魅力的な地域資源が多数存在し、沿線全体で年間約2,500万人の観光客が訪れる長野県内有数の観光エリアです。また、沿線9市町で県内人口のおよそ4割を占める地域もあります。北陸新幹線や関越道など交通の利便性が高く、リモートワークの普及や教育移住などにより、観光だけでなく居住先としても注目度が高まっている地域もあります。

令和元年のUDC信州発足以後、沿線自治体から寄せられていた「地域交通」や「中心市街地活性化」の課題解決のため、「上田市・千曲市広域シェアサイクル社会実験」などを手掛けてきました。移動面の問題とともに課題に挙がっていた人々が集い交流を促すような上質な空間創出のため、R6年度は「駅まち空間検討会議」を設置。駅および駅周辺の空間の質を高める検討を開始しています。



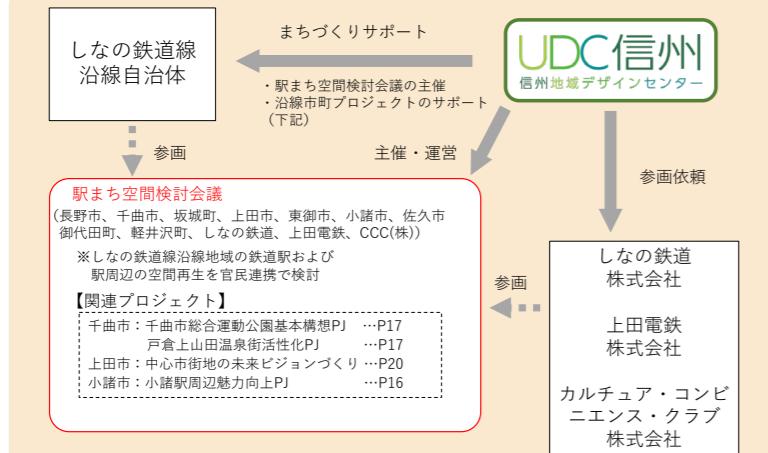
駅ごとのグループディスカッション



検討内容の発表



駅まち空間の観察



UDC信州の役割（全体）

UDC信州の役割は広域エリアでの全体企画や調整です。関係主体のハブとなり自治体および官民連携を推進しています。R6年度は「駅まち空間検討会議」の企画運営や、自治体ごとの情報提供・共有など実施しています。また、各プロジェクトにおいて、多岐にわたる関係者間の各種調整を行っています。

駅まち空間検討会議

「広域シェアサイクル社会実験」が終了し一区切りついたこともあり、地域の空間面の課題解決についても取り組むべく、令和6年度は「駅まち空間検討会議」を開催しました。会議では、学識者からの講演や全国および県内の事例研究を深めるインプット活動を行う一方で、しなの鉄道線全19駅の現況調査および、しなの鉄道線の4駅を対象とした現地調査をもとに、空間再編の方向性を検討して検討案発表などアウトプット活動も実施しました。

検討会議の第1回は早稲田大学森本章倫教授の講演をもとに、鉄道利用以外での駅まち空間を活用する意義について認識を深めました。第2回は、各自治体および鉄道事業者の調査により、会議メンバー全体で沿線駅まち空間の現況の理解を深めました。

第3回は、UR都市機構、CCC(株)、神戸市による県内外の駅まち空間活用の事例研究を行いました。第4回はグループごとに駅に赴き、現地調査を実施し、課題整理やポテンシャルの把握を行いました。各種調査やインプットした事例などを活かし、第5回ではグループごとに4駅の検討案を発表しました。

R6「駅まち空間検討会議」開催概要



開催概要

駅まち空間検討会議の目的

■人口減少や少子高齢化の進行という社会課題への対応
・持続可能な社会の実現には都市構造の変化が必要
⇒「コンパクト+ネットワーク」
・人口流出に歯止めをかけ、移住定住の促進を図るには魅力的なまちづくりが必要
⇒「若者や女性をはじめとした、誰にでも選ばれる地域づくり」

■課題解決に向けた具体的な対応策の検討
・地域の顔である駅を単なる交通結節点としてだけ捉えるのではなく、まちの拠点として認識
⇒ 多様な利用者を想定した上の居心地の良い空間づくり
地域住民や観光客等の来街者との交流の場「コミュニティハブ」としての賑わい創出
⇒ 官民連携での「駅まち空間」検討により、沿線地域のプランニング、価値向上を図る



「駅まち空間検討会議」
既存の駅機能や周辺の施設立地状況等を踏まえ、具体的な検討対象駅を選定のうえ、「駅まち空間」としてのポテンシャルや課題解決策を検討する。



上田駅「駅まち空間カルテ」

令和5年度

- 沿線地域の価値探索
- ✓ 第二期勉強会の開催（全6回）
- ✓ 駅まち空間検討会議の開催（全5回）
- ✓ 勉強会報告書（ディスカッションブック）の作成
- ✓ 検討会議報告書の作成
- ✓ 令和6年度総括会の開催
- ✓ 広域シェアサイクル社会実験（上田市・千曲市）

スケジュール（全体）

令和6年度

- 駅まち空間創出の検討
- ✓ 駅まち空間検討会議の開催（全5回）
- ✓ 検討会議報告書の作成
- ✓ 令和6年度総括会の開催
- ✓ 広域シェアサイクル社会実験（上田市・千曲市）

令和7年度（予定）

- 詳細調査とプロジェクト組成
- ✓ 検討対象駅について参加者と継続したディスカッション
- ✓ 沿線地域の詳細調査と空間像のビジュアル化
- ✓ 個々の駅の状況に応じて社会実験等アクションに向けたプロジェクト化

上田駅

上田駅は、しなの鉄道線がJR北陸新幹線、上田電鉄別所線と接続する交通結節点であり、しなの鉄道線の主要駅であると共に、首都圏等の広域的な移動の玄関口となっています。

路線バス乗降場は北側のお城口に集約され、周囲に飲食店等も多数立地するなど、お城口が上田駅の主要な役割、機能を果たしています。しかし、新幹線開通に合わせて整備されたお城口駅前広場は、イベント等も開催可能なステージも整備されているものの、周辺を車路が取り囲み孤立してしまっていることから広場として機能しま

駐車場空間を商業利用の空間とすることを計画しました。しなの鉄道(株)の土地を商業利用活用とすることで収益化を果たし、しなの鉄道の収益に寄与することを企図しました。

空間の設計コンセプトとして、広場ゾーンは手湯・足湯を設置した温泉街を感じられるテイストに、小商いゾーンはキッチンカーやお店が交代で入れ替わるような空間を検討しました。ベースとなるデザインティエストは定めつつも、詳細設計については、使われ方を検証しつつ官民連携で創り上げる「ハーフメイド」を旨とした設計方針を想定しました。



戸倉駅前ロータリーの土地活用方針



戸倉駅の駅まち空間再編のコンセプト

ているとはいえない状況です。

広域からの来街者玄関口として相応しいお城口の景観視認性の確保や、歩行者と車両の交差箇所を削減し、安産性及び利便性を高めると共に、多様なニーズに応えられる広場整備の必要性を議論しました。

検討においては歩行者、車両それぞれに必要な機能を分割し、集約することとしました。路線バス及びタクシー乗降場を一般車駐車場と集約して、現広場東側に配置。また、現広場中心から西側全体を歩行者空間とし、石畳や芝生によって城下町らしい空間を整備することを検討しました。



上田駅お城口改編のアイデアベース

KEY PERSON's VOICE

駅をテーマとした一年間の思索と議論は、駅と駅前の空間を、駅を中心とするまちを、そしてしなの鉄道線の広域エリアを考えるうえでの多くの気づきを与えてくれるものでした。しかし、一番印象的だったのは、参加された皆さんそれぞれの最初の自己紹介の面白さ。「個」の思いやアイデアを紹いで、空間を少しづつでも変えるプロジェクトを作りたいましょう！



KEY PERSON's VOICE

「駅まち空間検討会議」を通して、沿線自治体の皆様の優れた構想力に感銘を受け、多くの刺激を頂きました。沿線といえど、各駅の持つ個性は千差万別。参加者自ら構想することによって、それぞれの駅が持つ特色や課題をより鮮明に理解できたのではないか。これからも自ら描く勇気を持って、魅力的な「駅まち空間」の実現に繋げていきましょう。

千葉大学特任准教授 原 裕介 さん



大屋駅

大屋駅の北側には主要幹線道路である国道18号、南側には千曲川が存在しており、近隣ではかわまち公園の整備が進められています。駅は立地適正化計画には位置付けられていないものの、依田窪地域へ接続する公共交通の発着場となっていることから、交通結節点の役割を有しています。駅前の国道152号については交通量が多く、常態的に渋滞が発生する箇所となっています。

検討においては、駅南口と駅南東箇所の空間再編、および北口の新たな創設について検討を行いました。南口を依田窪地域からの玄関口として

よりふさわしいものとするため、ロータリーを再編、余剰箇所に駅前広場を整備することを検討しました。さらに、駅の橋上化を行い、連絡通路を整備。駅北側への移動および橋上空間に公共施設を移設するなど活用を検討しました。

また、上田市の月極駐車場として線路沿いに細長い上田市所有の駐車場内に、送迎ゾーンを整備したり、駐輪場やシェアサイクル、EVタクシー発着場など、各種モビリティの集約を果たすことで、交通渋滞解消や交通結節機能を強化を試みる案を作成しました。



大屋駅前ロータリーの土地活用方針



大屋駅前ロータリー改編のアイデアベース

田中駅

田中駅は東御市の中心市街地最寄りの駅であり、市役所はじめ病院、図書館など公共施設へのアクセスに優れた駅です。特徴的な施設として温泉施設「ゆうふるtanaka」が隣接しており、徒歩圏内に、カフェやワインチャペルなど、特徴的な店舗も存在しています。駅は南北にロータリーがあり、現地調査の結果、送迎時は北口側の利用が7割、南口側の利用が3割程度ありました。

検討においては、駅や駅前ロータリーのみを検討の射程にとどめることなく、中心市街地との接続の観点から、田中駅前交差点に建築物や芝生設置など、滞留空間を整備することを

検討しました。駅北口については、歩行者優先、人を中心の活用がなされる空間とするように検討を行いました。駅北口を通学・市内観光の拠点と位置づけ、滞留空間の場所やしつらえ、景観面や什器のバリエーション、ロータリーの設置箇所などを念頭に置き、複数パターンを検討しました。

駅南口については、北口を人を中心の空間として検討する一方で、南口を通勤・パークアンドライドの拠点と位置づけ、送迎機能により特化した空間整備とし、ラウンドアバウト化や、駐車場の増設など、北口よりも車優先の整備として検討しました。



空間再編のアイデアベース



田中駅、駅まち空間再編のコンセプト

KEY PERSON's VOICE

この会議に参加した成果は、沿線自治体、鉄道事業者の方たちの様々な考え方方に触れたことです。共通した課題認識であっても、その課題に対するアプローチは人の数だけある。そんな気づきを得られました。会議を通じて人と繋がることで、「駅まち空間」に限らず色々な取組みに発展することが理想だなと思っています。

東御市建設課 所 洋一 さん



KEY PERSON's VOICE

参加させて頂くことで課題や事例に対して共通の目線を持つことができて当方にとっても非常に有意義なものとなり感謝しております。官民間わざに地域の方々への価値を多面的に捉えながら連携、前進していくことで大きな流れをつくれるよいな、と考えております。頑張ります！

カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社 新後 桂祐 さん



蓼科・白樺高原 レイクリゾート構想基本方針

～日本を代表する象徴的なレイクリゾート創生への挑戦～

レイクリゾート構想基本方針の位置づけ

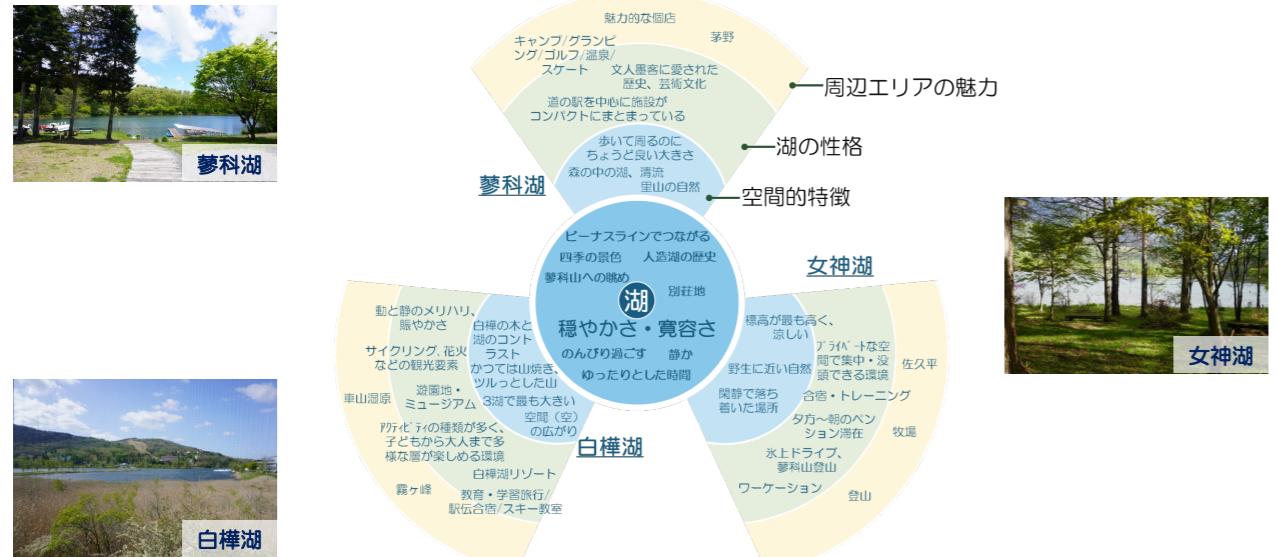
本方針は、既存の民間主導の取組みと連携しながら、これから のレイクリゾートの未来を具体化し、エリア全体の価値を高める指針となるものです。別荘客・多拠点居住者、地域住民・観光事業者、観光客といったレイクリゾートに関わる主体がこの方針を共有しながら、それぞれ、また共同で地域づくりを進めていきます。

▼レイクリゾート構想基本方針の位置づけ



3湖共通の価値と特徴

蓼科湖・白樺湖・女神湖の三つの湖が共通して有する本質的な価値と、各湖特有の機能や特徴、概念図を整理しました。



KEY PERSON's VOICE

新たな発想で自然や景観を活かしたリゾート地を創造していく取り組みは心躍る期待感がありました。この1年、関係者が集って喧々諤々、UDC信州の皆さんとの力を借り、3湖エリアの素敵さが再認識できることの大いな成果。これからは、基本方針を礎に小さなことから実現することが大切だと感じています。

帰ってきた蓼科株式会社
矢崎 公二 さん



KEY PERSON's VOICE

今回のレイクリゾート創造プロジェクトにより、我々地元の事業者・地権者・行政間で、わくわくする共通認識を持つ事が出来たことが、とても大きかったと思います。3つの湖の参加者がそれぞれお持ちの熱い思いをぶつけやすい場にして頂き、かつ、それを精緻に言語化していただいた過程は、これからの具現化が楽しみになる時間でした。ありがとうございました。

株式会社白樺村
矢島 義拡 さん



ブランドコンセプト（理想の姿）

理想の実現に向けて、理想からかけ離れている点と、それに対する必要な視点を整理しました。

レイクリゾートとは

「穏やかさ」や「寛容さ」など、湖が持つ本質的な価値を活かし、一人ひとりが思い思いの時間を過ごせる場所

ブランドコンセプト（理想の姿）

それぞれに豊かなライフスタイルを描けるレイクリゾート
～ おかえりなさい、心満ちる高原の湖畔へ～
Welcome home to your lakeside retreat

具現化の方向性

3湖が連携することで、一つの湖だけでは生み出せない豊かさや深みを提供し、住む人と訪れる人の多様なニーズに応えられる「レイクリゾート」を目指します。

いつでも、思い思いにくつろげる湖畔の多様な過ごし方を追求する。



施策の全体像

湖の特徴と価値を活かした空間整備と活用の推進、また、その運営を担っていく体制づくりに向けた、本方針にて実施を検討していく施策の全体像を以下に示します。



構想実現に向けた役割分担

レイクリゾート構想の実現をするためには、行政・民間がそれぞれ責任と必要な役割を持ち、公民連携して取組みを進めていく必要があります。

エリア全体の方向性を「レイクリゾート推進協議会（仮称）」にて検討し、行政は組織内を横断した連携や公共施設の整備など、民間は主体的に構想実現に向けた取組みを進めていくよう努めています。

KEY PERSON's VOICE

自然豊かな環境と地域資源を活かし、観光や地域活性化を促進し、持続可能な観光地の形成に向けて大きなインパクトを与えるものだと感じた。特に地域住民や企業との連携がいかに大切かという点を強く実感した。立科町の行政が進めるうえで、このような環境を活かしたリゾート構想は、地域経済の活性化や、観光業の発展にとって非常に重要な役割を果たすことが期待される。

一般社団法人信州たてしな観光協会
金子 玲 さん



KEY PERSON's VOICE

ブランド戦略の基本に従い、社会は今どのような状況にあるか、人々は「旅」に何を求めるのか、3湖はそれらに応える如何なる機能と体制を持つべきかを、様々な主体が参加し議論を重ねた素晴らしい構想です。レイクリゾートが単なる一つの観光地ではなく、人々の人生にとってなくてはならない正に「心満ちる空間」となることを期待します。

茅野市地域創生政策監
熊谷 晃 さん



プロジェクト概要

令和5年度より、諏訪湖とまちなかを繋げ、諏訪湖周辺の魅力的な暮らしの実現を考えるための検討会を立ち上げ、諏訪市、岡谷市、下諏訪町と諏訪地域振興局、諏訪建設事務所が広域的なまちづくりの検討を進めています。



諏訪湖周辺エリア戦略検討会の様子

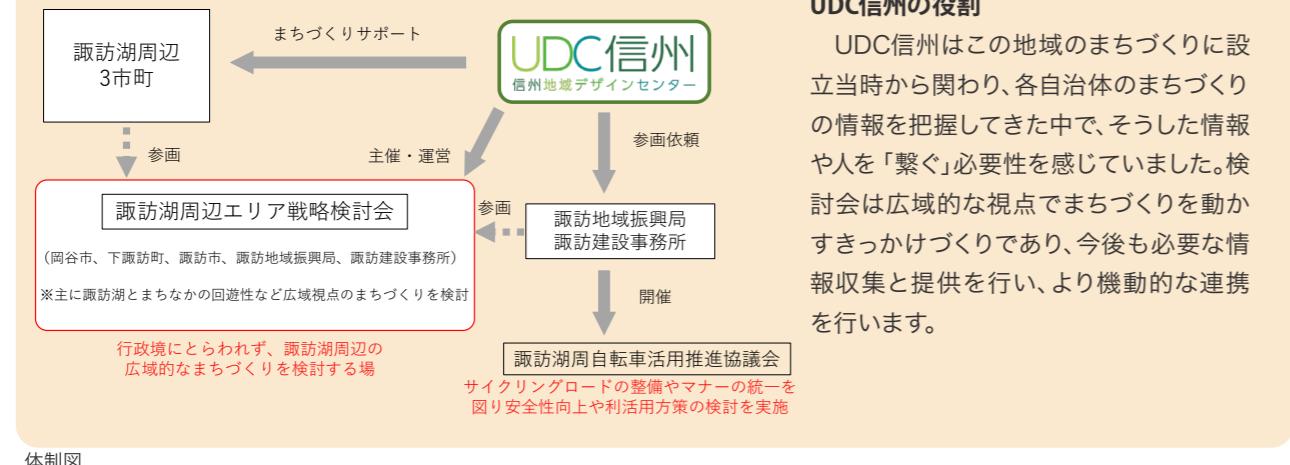
基本情報

市町村名／諏訪市、岡谷市、下諏訪町
人口(2025/3/1現在)／約111,000人(2市1町合計)
面積／約262km²(2市1町合計)
主な観光地／諏訪湖、上諏訪温泉、岡谷蚕糸博物館、諏訪大社下社秋宮・春宮

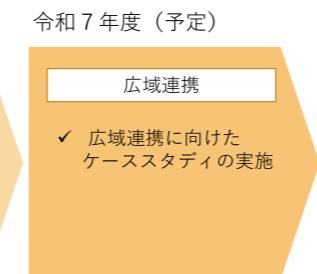
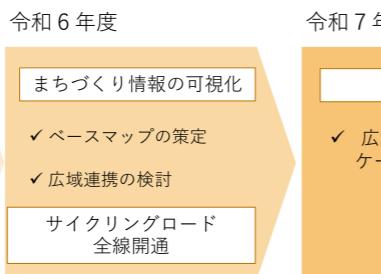
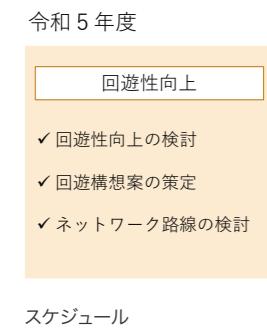
プロジェクト説明

諏訪湖とまちなかのつながりや、諏訪湖周辺らしい居心地の良い都市空間の創出を考えるために「諏訪湖周辺エリア戦略検討会」(以下、検討会)を令和5年度に立ち上げました。令和5年度は諏訪湖とまちなかの回遊性向上をテーマに2市1町、諏訪地域振興局と諏訪建設事務所と議論を重ねてきました。

令和6年度は広域的な視点からまちづくりを進めるために、まずは2市1町と県が取り組んでいる事業を諏訪湖を中心とした地図に落とし込み、まちづくりの情報共有に資するベースマップを作成しました。今後はベースマップを基に広域的な視点でのまちづくりを議論していきます。



体制図



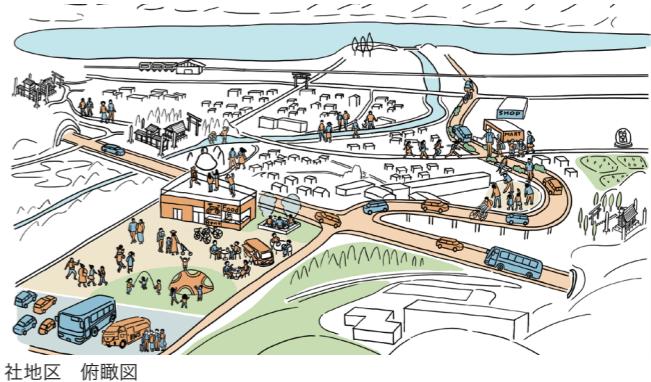
スケジュール

特色ある4つのエリアのありたい姿の実現に向けて！

下諏訪グランドデザインプロジェクト

プロジェクト概要

令和2年度に、下諏訪町内のグランドデザインを策定したいという相談があり、町と進め方について議論しました。令和3年度から、町内の4地区において順次ワーキンググループ・委員会を立上げ、基本理念、俯瞰図及び要所図を記載したグランドデザインの策定を行なっています。



基本情報

市町村名／下諏訪町
人口(2025/3/1現在)／約18,000人
面積／約67km²
主な観光地／諏訪大社下社秋宮・春宮、諏訪湖、八島湿原

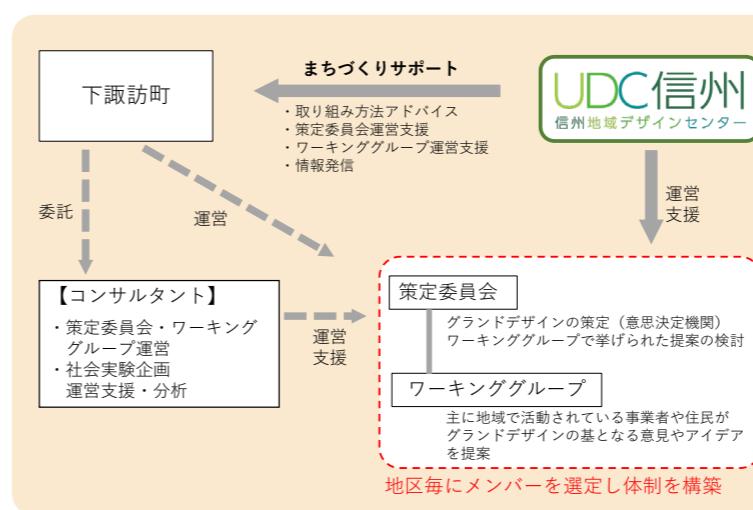
プロジェクト説明

下諏訪町は、歴史的な街並みが残る諏訪大社下社秋宮周辺、様々なアクティビティが見られる諏訪湖畔周辺など魅力的なエリアが存在する一方で、その魅力がまちなかの回遊につながっていないといった課題もあります。

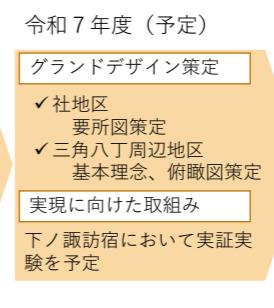
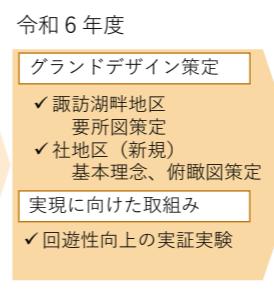
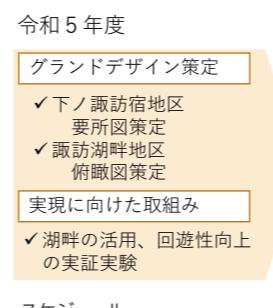
そうした中、町が選定した4地区において、将来のあり方を誰もが認識し共有できるようにグランドデザインの策定を進めており、令和6年度は、諏訪湖畔地区、社地区の2地区の取り組みを進めました。

諏訪湖畔地区は、湖畔でのんびり滞在する姿、イベントや水上アクティビティを楽しんでいる姿などの要所図が描かれ、地区のグランドデザインが完成しました。

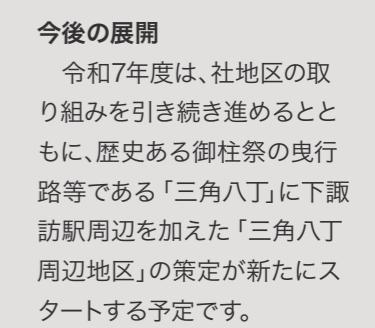
社地区は、歴史や文化、眺望のよさを活かしながら、道路整備による新たな賑わいある暮らしの場の創出を目指すとして、基本理念、俯瞰図が策定されました。



体制図



スケジュール



自分たちが欲しい上諏訪駅周辺のミライを自ら考え、自ら実現していく！

諏訪市未来プロジェクト

プロジェクト概要

令和2年度に上諏訪駅周辺のまちづくりに関する相談から動き出し、令和4年度に官民連携による「上諏訪駅周辺まちなか未来ビジョン」を策定。その後、令和5年度にはビジョン実現に向けた社会実験と具体化を検討する官民連携エリアプラットフォーム「スワ・マチ・ミライ」を設立しました。

基本情報

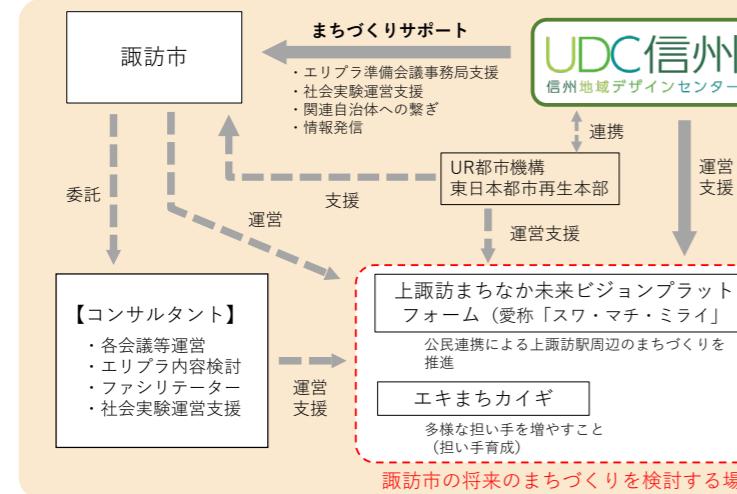
市町村名／諏訪市
人口（2025/3/1現在）／約48,000人
面積／約110km²
主な観光地／諏訪湖、上諏訪温泉、諏訪大社上社本宮、霧ヶ峰高原



社会実験で使用した「ちょっとサイン」とヌックマークの入った「キーワード」の石

プロジェクト説明

今年度は「スワ・マチ・ミライ」が中心となり未来ビジョンの実現に向けて、「まちにヌック※を探しに行こう」をテーマに1ヶ月間参加型社会実験を行いました。社会実験では、空き店舗で高校生によるチャレンジショップ、柳並公園で音楽ライブ、まちなかに「すわっていいよ」ベンチの設置、まちの豆知識を書いた「ちょっとサイン」



体制図

令和5年度

- スワ・マチ・ミライ設立
- ✓ エリアプラットフォーム組成検討
- ✓ 社会実験実施
- ✓ 「エキまちカイギ」開催

令和6年度

- スワ・マチ・ミライ始動
- ✓ 具体プロジェクト検討
- ✓ 社会実験実施
- ✓ 「エキまちカイギ」開催

令和7年度（予定）

- 未来ビジョンの実現
- ✓ 具体プロジェクト検討
- ✓ 社会実験実施
- ✓ 上諏訪駅周辺地区整備基本構想の検討

今後の展開

令和7年度はスワ・マチ・ミライの官民連携プロジェクトを構成員と一緒に検討していくと共に、上諏訪駅周辺地区の将来像検討について支援を行っていきます。

魅力高まるまちなかへ足を延ばそう！

小諸駅周辺魅力向上プロジェクト

小諸市

プロジェクト概要

平成29年に小諸市、UR都市機構、URリリンクで「多極ネットワーク型コンパクトシティによる都市再生に関する基本協定」を締結しました。令和元年度にUDC信州設立以来、URグループと連携して小諸駅周辺のまちづくり支援を実施しています。



小諸駅前社会実験の様子

基本情報

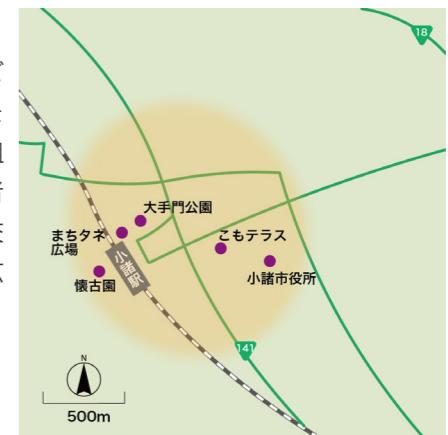
市町村名／小諸市
人口（2025/3/1現在）／約42,000人
面積／約99km²
主な観光地／浅間山、懐古園、高峰高原、布引観音、北国街道・小諸駅

プロジェクト説明

小諸市は駅西側に観光名所の懐古園がありますが、東側の中心市街地は魅力向上に課題を抱いていました。そこで、平成29年度の小諸市とURグループによる協定締結を契機に、UDC信州も市が掲げるまちの将来像実現に向け、支援を行ってきました。

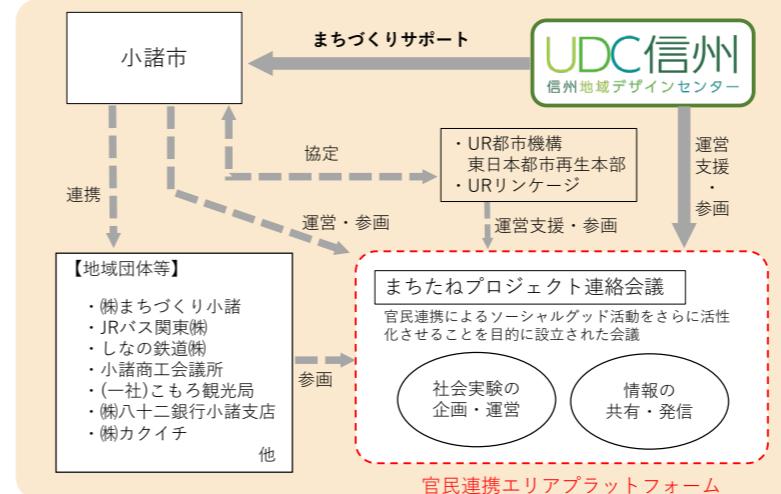
令和6年度は、MaaSアプリを活用した地域情報発信に加え、アクセシビ

リティ向上検証、グリーンストローモビリティ需要把握などのDX社会実験を実施し、さらなる回遊性向上に取り組みました。また、駅前広場内の歩行者滞留空間、賑わい空間創出に向け、交通整序の社会実験を実施し、駅前広場整備に向けた検証を行いました。



UDC信州の役割

UDC信州は、小諸駅周辺の子育てや健康づくりなど社会全体に良い影響を与えるソーシャルグッド活動を推進するために立ち上げた、官民連携エリアプラットフォームである「まちなかプロジェクト連絡会議」の構成員として、小諸市やURグループと共に、社会実験などの各種プロジェクトの企画、全体調整を行っています。



体制図

令和5年度

- ビジョンの検討
- ✓ 小諸駅周辺の滞留空間創出の検討
- ✓ 回遊性向上に向けた取り組みの検討

令和6年度

- ビジョンの実現
- ✓ 小諸駅前空間の創出に向けた社会実験・検証
- ✓ エリアビジョン実現に向けた検討

令和7年度（予定）

- ビジョンの実現
- ✓ 小諸駅前空間整備に関する効果検証
- ✓ エリアビジョン実現に向けた取り組みの推進

今後の展開

令和7年度は、駅前広場整備の効果について引き続き検証を行うとともに、エリアビジョン実現に向けた取り組みの支援を実施していく予定です。

スケジュール

スケジュール

地域資源を活かした魅力的な公園づくり 千曲市総合運動公園基本構想プロジェクト

プロジェクト概要

令和3年度に総合運動公園構想策定に関わる支援依頼を受けました。協議会に参画しつつ構想策定を支援し、令和4年度末に基本構想が策定されました。本地域は、運動公園、戸倉上山田温泉、千曲川といった豊富な地域資源を有しているため、健康や観光の拠点にもなるようなエリアを目指しています。

基本情報

市町村名／千曲市
人口（2025/3/1現在）／約58,000人
面積／約119km²
主な観光地／戸倉上山田温泉、あんずの里、姨捨の棚田、森将軍塚古墳



「戸倉上山田地区かわまちづくり協議会設立準備会」の様子

プロジェクト説明

基本構想は、対象地域を構成する「戸倉体育館」「白鳥園」「河川敷」の3エリアについて、コンセプトやゾーニング案等を取り纏めると共に、現状の未利用地や河川敷の有効活用により、一体的かつ効果的な土地利用や地域活性化を目指すものとなっています。

令和6年度は、「河川敷エリア」のかわまちづくり協議会が設置され、計画策定に向けた検討を進めました。



今後の展開

令和7年度は、かわまちづくり計画における事業内容等の検討や、3つのエリアの整備・検討が一体的かつ効果的に進むように支援していきます。

そぞろ歩きができる、懐かしくも新しい温泉街へのRebornを目指して 戸倉上山田温泉街活性化プロジェクト

プロジェクト概要

令和3年度に戸倉上山田温泉の活性化について相談がありました。本地区は、温泉街に隣接する県道の改良工事が計画されており、通過交通の通り抜けが多い温泉街の交通状況も大きく変化する可能性も想定されます。この状況を契機に、改めて温泉街のあり方を検討しています。

基本情報

市町村名／千曲市
人口（2025/3/1現在）／約58,000人
面積／約119km²
主な観光地／戸倉上山田温泉、あんずの里、姨捨の棚田、森将軍塚古墳

プロジェクト説明

県下有数の温泉地である本地区は、コロナ禍等による観光客の大幅な減少を受け、温泉街としての魅力向上の必要性を官民共に感じています。その中で、地区内を通過する県道の改良計画が動き始めた事を受け、中央通りを含めた温泉街の在り方について検討が始まりました。令和6年度は、戸倉上山田温泉まちづくり推進会議が設立され、部会によるワークショップで温泉街の将来像等の検討を進めました。



「戸倉上山田温泉まちづくり推進会議部会」の様子



今後の展開

令和7年度は、これまでの推進会議部会での議論や、出されたアイデアを踏まえた社会実験の実施支援等により、官民連携体制の構築を進めていけるように支援していきます。

千曲市

善光寺だけじゃない！中心市街地の魅力を生かした再生に向けて 長野中心市街地まちなか再生プロジェクト

プロジェクト概要

長野市が策定した「長野中央西地区市街地総合再生基本計画」の進め方について令和4年度に相談があり、市長との意見交換会や先進地視察など実施してきました。令和6年度は、令和5年度に継ぎ地域商店会との勉強会を開催。ワークショップを介してどのようなまちにしたいかという議論を深めてきています。

基本情報

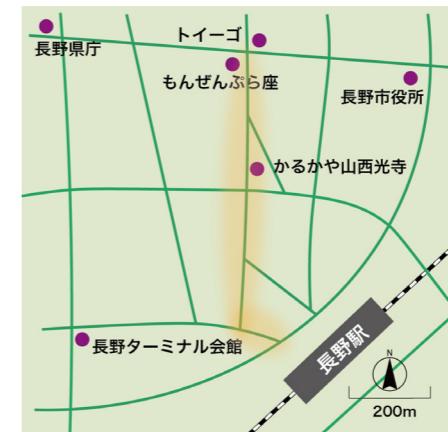
市町村名／長野市
人口（2025/3/1現在）／約369,000人
面積／約835km²
主な観光地／善光寺、戸隠神社、松代城、飯綱高原、鬼無里



「中央通りを軸としたまちづくり勉強会」の様子

プロジェクト説明

長野市は令和3年度に「長野中央西地区市街地総合再生基本計画」を策定しています。この基本計画に掲げられた中央通りの「ウォーカブルなまち」の実現に向け、令和6年度は地域5商店会の方々と「中央通りを軸としたまちづくり勉強会」を4回開催し、課題の把握や中央通りで実現したいシーンを議論しました。次年度以降、シーンの実現に向けた社会実験なども検討されています。



今後の展開

令和7年度は、勉強会で議論してきた内容をもとに、進め方や体制、事業手法の検討を行い、長野市とともにウォーカブルなまちの実現に向けて継続して支援をしていきます。

隣接市町村と連携して誰も取り残さない地域づくり 小海町コンパクトタウン強化プロジェクト

プロジェクト概要

令和6年度から、小海町駅及び周辺エリアに医療、福祉施設に加え、商業、居住などを集約強化や隣接町村との連携などにより、さらに暮らしやすい小海町の再構築、具現化を行っています。



小海駅

基本情報

市町村名／小海町
人口（2025/3/1現在）／約4,000人
面積／約114km²
主な観光地／松原湖、小海町高原美術館、松原湖高原スケートセンター

プロジェクト説明

小海町では、小海駅及び駅周辺を医療・福祉・教育・商業などの機能向上や交流・活動の場の配置により、交流や賑わい、魅力向上を図り、隣接町村との連携も視野にいた持続可能な地域づくりを目指しています。中山間地域持続モデルとして、府内個々の取り組みが有機的に進むよう、全体の方向性の可視化支援をし、官民連携による地域ビジョンの計画策定を進めてきました。更にすべての人が、「自律」した生活ができる町独自の



今後の展開

令和7年度では、府内に設置された「小海町まちづくり推進委員会」に参画し、具現化を町と一緒に進めています。

プロジェクト名／年度	R3	R4	R5	R6	R7
しなの鉄道線沿線地域 駅まち空間創出PJ 【P5～P8】	・第一期勉強会（R2～） (沿線4市+鉄道事業者 +UDC信州で構成)		・第二期勉強会（R4～） (沿線8市町+鉄道事業者2社 +UDC信州で構成)	・駅まち空間検討会議（R6～） (沿線9市町+民間事業者3社 +UDC信州で構成)	・沿線の駅まち空間の調査 および関係自治体との 意見交換や協議
(広域シェアサイクル 社会実験)【P6】	・広域シェアサイクル社会実験（R3～R5） →回遊性向上への効果把握 滞在効果への効果把握 事業性の検証 等			・上田市、千曲市において 本格実装	・鉄道沿線の自治体および 民間事業者との情報共有 および勉強会を予定
レイクリゾート創造PJ 【P9～P12】	・観光センター周辺の 現状把握	・観光センター周辺のWG 設置に向けた検討 ・レイクリゾート構想発表 ・広域（3湖周辺）の現状把握	・観光センター周辺のWG ・観光センター周辺整備計画策定 ・広域エリアの実態調査 ・広域エリアの検討体制検討	・計画実現に向けた事業手法 の検討等 ・レイクリゾート基本方針の策定 ・調整会議の開催 ・関係者へのヒアリング	・実現に向けた検討体制の構築 ・基本方針の取組の実施
諏訪湖周辺まちづくりPJ 【P13】			諏訪湖周辺エリア戦略検討会	・ベースマップの作成	・広域連携の検討
	・諏訪湖周自転車活用推進協議会	・整備ガイドラインの検討	・ルールの周知 ・諏訪湖サイクリングロード完成	・サイクリングロード開通式 ・計画改定検討	
下諏訪グランドデザインPJ 【P14】	・対象地区のグランドデザイン策定委員会及びワーキンググループ ・下ノ諏訪宿地区基本理念、 俯瞰図策定	・下ノ諏訪宿地区要所選定 ・諏訪湖畔地区基本理念、 俯瞰図策定	・下ノ諏訪宿地区要所図策定 ・諏訪湖畔地区実証実験等 ・諏訪湖畔地区要所選定	・諏訪湖畔地区実証実験等 ・諏訪湖畔地区要所図策定 ・社地区基本理念策定	・下ノ諏訪宿地区実証実験等 ・社地区要所図策定 ・三角八丁周辺地区基本理念、 俯瞰図策定
	・社会実験等の実施 (R4～R6) →R4下諏訪宿本陣（左） →R5「湖畔日和」（右） →R6「湖畔日和2024 ～水辺で散歩まちがし。～（レンタサイクル）」				
諏訪市未来PJ 【P15】	・「エキまちカイギ」の発足 および定期開催（R3～） →参加者が 様々なプロジェクトを 市内で実施中	・R4「第一回かみすわ一箱古本市」 	・R5複合施設「ポーティー」オープン 	・R5「湖畔クリスマスマーケット」 	・R6「マウンテンバイク体験会！」
	・未来ビジョン策定会議 ・未来ビジョン策定	・エリプラ構築準備会議 ・エリアプラットフォーム組成 ・社会実験の実施	・エリプラ始動 ・ウォーカブルに向けた検討 ・社会実験の実施	・未来ビジョンの具現化 ・ウォーカブルに向けた検討 ・上諏訪駅周辺のまちづくり検討 ・社会実験の実施	
小諸駅周辺魅力向上PJ 【P16】	・官民連携の体制構築 ・まちなかDX社会実験（R3～R4） →回遊性向上への効果把握 駅前のニーズ把握 等		・ビジョンの検討、公表 ・駅周辺の滞留空間創出に 向けた社会実験の実施	・駅周辺の滞留空間創出に 向けた社会実験の実施 ・ビジョン実現に向けた検討	・駅周辺の滞留空間整備に 関する効果検 ・ビジョン実現に向けた 取組み推進
千曲市総合運動公園 基本構想PJ【P17】	・基本構想策定方針の策定 (R2) ・基本構想策定協議会	・基本構想の策定	・基本計画の検討（R5～） ・かわまちづくり協議会準備会	・かわまちづくり協議会	
戸倉上山田温泉街 活性化PJ【P17】	・現状把握 ・進め方の検討	・専門家との現地調査 ・まちづくり講演会の開催	・ビジョンの検討（R5～） ・社会実験/効果検証（R5～） ・グランドデザインの検討開始 (R6～)	戸倉上山田温泉まちづくり推進会議 住民主体のまちづくり組織構築 ・社会実験の実施検討 ・まちなみ整備イメージの作成	
長野市中心市街地まちなか 再生PJ【P18】		・現状把握 ・進め方の検討 ・先進地視察	・勉強会開催 ・勉強会や講演会の開催 ・地域や民間へのヒアリング	・ウォーカブルに向けた検討 ・社会実験等の実施検討	
小海町コンパクトタウン 強化プロジェクト【P18】				・小海町まちづくり推進委員会 ・小海町駅及び周辺エリアへ の医療、福祉施設、商業、居住 などの集約強化に向けた検討	

その他の進行中プロジェクト

■ 中心市街地のエリアビジョンづくり / 上田市

上田城跡、上田駅周辺等の城下町エリアについて、官民連携によるエリアビジョンづくりを進めています。



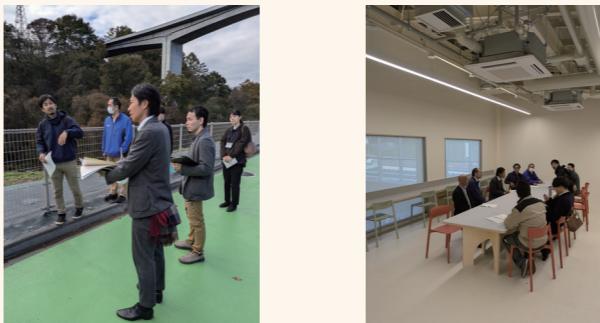
官民共創の新しいまちづくりPJ(伊那北駅周辺) / 伊那市

伊那北駅周辺の将来像、まちなかエリアのリノベーションの検討など官民共創による「新しいまちづくり」を進めています。



新設道の駅 + 市街地の連携 / 佐久穂町

道の駅整備を契機とした地域振興を検討する協議会の運営サポートを行っています。



中心市街地のビジョンづくりと公共施設再編 / 岡谷市

ララオカヤを含む岡谷駅周辺のビジョンづくりの検討を進めています。

諏訪湖イベントひろば利活用検討PJ / 諏訪市

下平地区(サッカー場ほか) / 高森町

茅野駅西口再整備PJ / 茅野市

column

長野県と MINTO 機構がまちづくり支援の連携協定を締結しました

長野県は、民間都市開発推進機構（MINTO 機構）と、2024 年 4 月 26 日に「まちづくり支援に係る包括連携に関する協定」を締結しました。

MINTO 機構は、まちづくり事業に融資や出資、助成等の支援を行っている一般財団法人で、「民間都市開発の推進に関する特別措置法」に基づき、民間活力を活用してまちづくりを進める主体として、国土交通大臣の指定を受けています。また、「都市再生特別措置法」に基づき、大都市の大規模事業だけでなく、地方の地域活性化に役立つ小さな事業への融資も行っています。

長野県と MINTO 機構の協定締結により、UDC 信州のまちづくり支援に合わせ、MINTO 機構のノウハウに基づいた金融面の相談対応が可能となるほか、民間事業者が市町村等と連携して行うまちづくり事業において、同機構の見識や経験からのアドバイスや情報を活用できることとなりました。

この協定について阿部知事は「金融支援をする機関の力が合わさることで、より具体的なまちづくりを進められる。未来につながるまちづくりに向けて全力で取り組んでいきたい」とし、MINTO 機構の花岡理事長は「我々が持つ金融やソフト面の支援メニューを総動員し、期待に沿うよう頑張りたい」と意欲を示しました。



長野県とカルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社がまちづくりの推進に係る協定を締結しました

長野県総合5か年計画「しあわせ信州創造プラン 3.0」で掲げる『地域の特徴と自然の恵みを生かした快適で魅力ある空間づくりの推進』のため、ライフスタイルに関するコンテンツや地域のコミュニティ拠点づくりなどのノウハウを持つカルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社（CCC）と、2024 年 12 月 9 日に「まちづくりの推進に係る協定」を締結しました。

この協定は、しなの鉄道線沿線を中心に地域の賑わいを創出することを目的とし、特に女性や若者にとって魅力的なエリアの再構築やデータ分析が重要なテーマとして挙げられています。

TSUTAYA などを展開する CCC は軽井沢町でコミュニティー施設や書店を運営しており、経験に基づいた地域づくりの取り組みが期待されています。

阿部知事は同社施設の印象について「非常に上質で居心地の良い空間」と話し、若者の県外流出問題に対して快適で楽しいまちの重要性を強調したうえで CCC の経験を活かしたい意向を表明しました。

増田会長も「『長野県がすごくなった』と言われることがゴール」と強調しました。

CCC が都道府県と連携協定を結ぶのは初めてですが、すでに指定管理者として各地の公共図書館でカフェや読書空間を備えた複合施設の企画運営等を行っています。

増田会長は、成功事例をそのまま踏襲するのではなく、地域にとって意義のある新しい取り組みを模索したいとの考えを示しました。



UDC 信州
育む
CULTIVATION

実践型まちづくりセミナー@伊那市



西村 浩 氏

建築家/クリエイティブディレクター
株式会社 ワークビジョンズ代表取締役



入江 智子 氏

株式会社 コーミン代表取締役
(元大東市役所)



渡 和由 氏

元筑波大学環境デザイン領域准教授
現UR都市機構東日本都市再生本部 参与/
筑波大学大学院・法政大学大学院非常勤講師



森本 瑛士 氏

信州大学 工学部
水環境・土木工学科 助教

第16回のセミナーでは、伊那市を舞台に4名の講師をお迎えして、1泊2日でまちあるきやグループワークを通して伊那市の抱える課題を捉え、その解決方策を提案する「実践型まちづくりセミナー」を伊那市と共に開催しました！

まちづくりを進める行政職員は目の前の業務に捕らわれてしまい、まちを俯瞰的に見て課題を考えたりすることがおそろかになってしまったりします。またハード整備を完了させることが目的となってしまい、どのようにその空間が使われるかを計画段階から意識することが抜け落ちてしまいがちです。

日々の業務から一歩離れ、まちをじっくり捉え、まちの課題と地域資源を分析し、その解決方策を提案する2日間の実践型まちづくりセミナーを伊那市にて開催しました。

UDC信州として1泊2日形式のセミナーは初めての試みでしたが、県職員、市町村職員、大学生の総勢77名の参加者が集まったセミナーとなりました！

まちづくりの重要な視点をインプット

今回のセミナーでは民と学のそれぞれ異なる分野にて第一線で活躍されている4名の講師の方々からそれ

ぞの専門分野やご経験からまちづくりにおける重要な視点等をお話いただきました。

これからの不動産経営と公共空間活用のふか~い関係

西村氏からは、公共空間を魅力的な空間にすることで人気のエリア、人気のまちになり、地価が上がり、固定資産税が上がることでまちづくりの公共投資を回収し、さらに魅力的な公共空間を作り出すことができるというまちづくりにおける正のフィードバックを回すことが重要というお話を頂きました。

地方都市のプレイスメイキングと環境資源を活かす配置計画

渡氏からは、プレイスメイキングの概念から魅力的な居場所づくりに重要な8つの場の要素のお話であったり、まちなかに椅子を設置し、まちなかの様々な地域資源と組み合わせたプレイスメイキングの実践のお話を頂きました。

渡氏の講演の後に、プレイスメイキングを体験するために伊那市のセンターラルパークに行きお昼ご飯を食べた参加者もいました。



早速プレイスメイキングの実践をする受講者

公民連携は Win-Win で～そのための行政の心得～

入江氏のお話では、大東市役所職員だった際のご経験も踏まえて、行政がどのように官民連携を進めるべきか、具体的なスキームなどもお示しいただきながらご説明いただきました。参加者と同じ公務員だった入江氏が実践してきたまちづくりはとても良い刺激と学びがあったのではないでしょうか。



まちあるきの様子

コンパクトシティにおける中心市街地の役割

森本先生のお話では、市町村で策定する都市計画マスターplanにおいて、ある自治体で設定した交通軸が隣接する自治体とは繋がっていないことがあるなど、市町村計画間における不整合についてお話がありました。都市計画を所管する行政職員にとっては耳が痛いお話と市町村間の連携の重要性を感じました。

まちの見方を鍛える

まちあるきでは、4名の講師の方々と伊那市駅から伊那北駅までの間のまちあるきを行い、講師の方々がまちをどのように見ているか等、新しい視点でのまちの見方を鍛えました。普段は気にも留めないような空き地や駐車場が実はまちを変えることができるポテンシャルを持っているなど大きな気づきがあるまちあるきでした。

実践に落とし込む

グループワークではまず、まちの課題や地域資源について各グループで話し合いを行いました。自分のまちと伊那市を比較して課題を分析したり、地域資源を見出したりと活発な議論がきました。



中間発表の様子

課題や地域資源の議論の後は、解決方策となるプロジェクトについてグループで議論を行いました。グループには大学生も入っているので、若者視点の意見をもらいながらどんなプロ



最終グループ発表の様子

ジェクトをすると伊那市がもっと良くなるか議論を行いました。各グループで議論したプロジェクトについては最後に発表を行い、講師の方々から講評をいただき各グループ毎の議論と提案についてフィードバックをもらいました。

参加者からは「今回のセミナーはこれまで無かった視点を学べて非常に有意義だった!」「ハードづくりと人づくりの考え方方が自分のイメージと180度変わった!」「まちづくりを考えるにあたって事業性という観点は今後必要な観点なので参考にしたい!」などのお声を頂いており、非常に有意義なセミナーだったかと思います!またセミナーやグループワークを通して普段はあまり接すことのない他自治体の職員との交流や情報交換を行っている姿もありました!自治体の枠を超えて、まちづくりに携わる行政職員全員で切磋琢磨しながら長野県のまちづくりを盛り上げていきたいですね!



講義風景

今年度UDC信州職員が今後まちづくりの大きな潮流となるであろうスマートシティについて学ぶために東京大学大学院新領域創成科学研究科スマートシティスクールを受講しました。

東京大学大学院新領域創成科学研究科スマートシティスクール（以下スマートシティスクール）は、まちづくりにおけるデジタル技術やデータ活用、最先端技術を学びスマートシティの実現に資する知識を習得とともに、都市・地域の課題を読み解きまちづくりの将来ビジョンの構想力を養うために東京大学により創設された社会人リカレントスクールです。

UDC信州においてもまちづくりにおいて人流データを活用するなどデータに基づいたまちづくりの提案に取り組み始めています。また人口減少による人手不足等の課題に解決するためには既存の技術や考え方依存したまちづくりでは対応できません。そのため最先端技術や新たな視点の考えを取り入れたスマートシティの実現は今後のまちづくりにおいて必要不可欠であることからUDC信州職員がスマートシティについて学ぶためにスマートシティスクールを受講しました。

何を学ぶべきなのか

2024年5月10日にスマートシティ

スクールの初回の授業があり、スクール長の出口先生よりスマートシティスクールにおける以下3つの学修目標についてのお話がありました。

- ①先端技術・先端事例から問題の見方・捉え方・解法の考え方を学ぶ
- ②自らのまちづくりの戦術（＝スマート）+10年後の都市像（＝シティ）を考えるスキルを身に着ける！
- ③修得した力を活かす新たなビジネス、新たな仕組みづくり、自ら変革するイメージを持つ

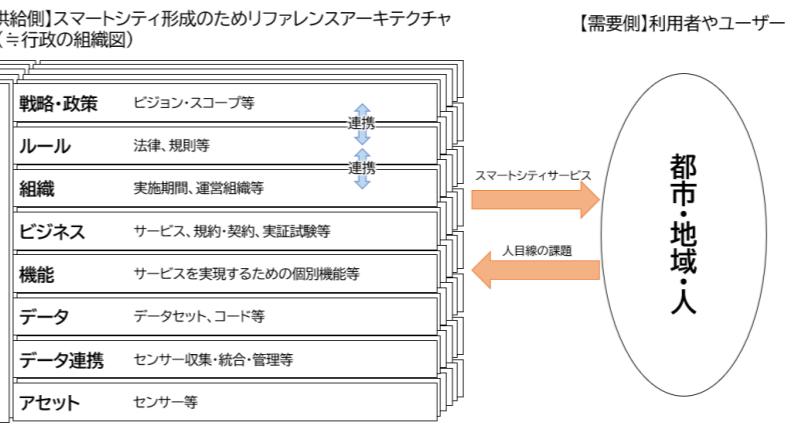
3つの学修目標の内①は学生時代に講義を受ける場合においても同様の目標かと思います。また②についてはまちづくりに携わる行政の職員として日々の計画作成や都市計画を考える上でも必要な事でありスマートシティスクールの学修目標としても到達すべき目標であると感じました。③の学修目標についてはスマートシティスクールで学んだことを自らの組織に持ち帰り、それを活かして自発的に動いて周囲を巻き込みながら既存の仕組みや構造を変えていくことを考えなければ到達できない目標であり、前例踏襲を是としてきた行政職員としてのマ

インドを180度変えなければいけないと感じました。

座学を通して

座学の講義ではまちづくりや都市計画に関する事から、モビリティ、AI、都市OS、などのスマートシティに実装される最先端技術等、また教育、グノム、物質循環など幅広い分野の講義を受講し、スマートシティ形成に係る包括的な知識を学びました。

最初の講義でスマートシティの概論について学び、そのなかでスマートシティ形成のためにはその設計図ともいわれるリファレンスアーキテクチャが必要であるというお話がありました。これは上位概念の政策からセンサーなどの測定機器までをそれぞれ階層構造のレイヤーで形成し、上下のレイヤー毎で連携や整合を図ることでスマートシティの形成を促す概念です。そしてこれはスマートシティサービスを供給する行政や民間組織の組織図にも当てはめることができます。そこでスマートシティについて知ることができ、スマートシティ



※講義資料等を基に筆者が追記・修正し作成

形成は組織の枠に囚われていたり、既存の考え方のままでは進まず、「変革」をイメージしながら進めないと感じました。

演習を通して

演習では「東京都北区のスマートシティ化」をテーマにまちの課題・資源を捉え、デジタル技術等を活用することで、どのようなスマートシティが描かれるか官民の様々なバックグラウンドの受講生とグループとなりスマートシティ化の実行計画を作成しました。

提案の作成段階で中間講評等があり先生方から提案に対するアドバイスや問題点をご指摘頂く機会がありました。その際に特に重要だと感じたコメントは以下の2つでした。

- ①住民や利用者など「人目線の課題」を捉えられているか。

この他にも様々な角度からグループの提案に対してコメントを頂き、コメントを基に提案内容を修正・深化化していく、スマートシティ化のグループ提案を作成しました。筆者のグループでは公園に健康アプリと連動した



自動運転バス視察の様子

ジョギングコースの整備や、防犯用のAIカメラ・スマート照明、公園内の樹木を含めたまちなかの樹木データや日陰・緑視データの可視化等の取組を提案しました。さらにデジタルデータを一元管理活用できるデータプラットフォームの整備を提案しました。

終わりに

スマートシティスクール受講前はスマートシティとは、既存のまちに最先端のデジタル技術やAIや自動運転などを導入すればスマートシティを形成できると考えていましたが、スマートシティとは既存の枠組みでは解決できないまちの課題を、最先端の技術を活用しながら、既存の枠組みに囚われず、スマートな方法で解決し対応していくまち（＝まちづくり）であることを学びました。

スマートシティの形成においては、縦割り組織で既存の枠組みに囚われている行政職員が変わることには達成が困難であるので、学修目標の③【修得した力を活かす新たなビジネス、新たな仕組みづくり、自ら変革するイメージを持つ】を日々の業務の目標に置き換えてまちづくりを進めたいと思います。

UDC信州では「スマートシティ」に関するまちづくりの相談や官民連携の提案もお待ちしております！【自ら変革するイメージ】を持って長野県のスマートシティ化を進めていきましょう！！

UDC 信州設立から5年を振り返って



総括する目的

令和6年8月にUDC信州は設立から5年を迎えました。ここではUDC信州の設立の経緯とUDC信州がこの5年間で行ってきた取組を振り返ると共に、今後の方向性や展望についてお伝えしたいと思います。

設立経緯

都市計画の主体が市町村へ

長野県は信濃川や天竜川、木曽川などの主要な河川の流域に沿って市街地や文化圏が形成されており、それらの圏域が山々により隔たっているため、それらが独自の文化圏を形成し発展してきました。

また長野県内には現在77の市町村があり、44市町村に39の都市計画区域が指定されています。これはほぼすべての自治体毎に1つの都市計画区域が指定されていることを意味しています。

そして地方分権が進み、都市計画

法手続きにおいて多くの権限が市町村へ委譲され、都市計画やまちづくりの主体は市町村となりました。

市町村が抱えるまちづくりの課題

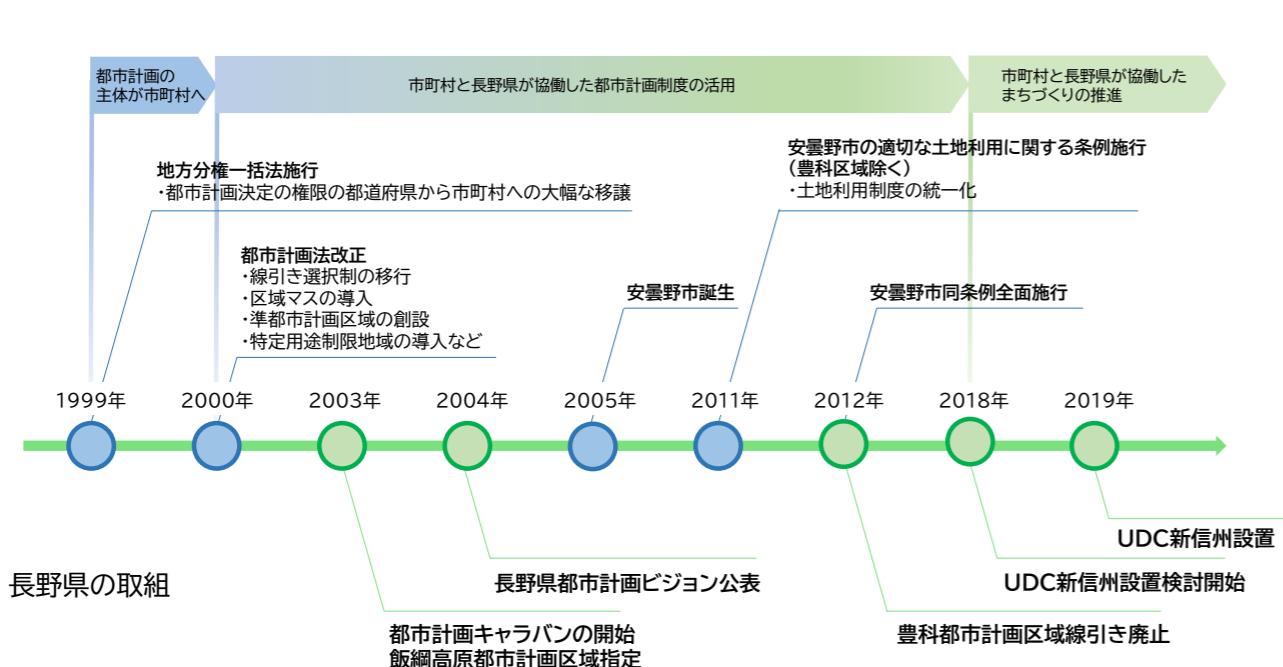
しかしながら長野県は小規模な市町村が多く、都市計画やまちづくりに選任する職員も年々減少しており、「人口減少対策」「コンパクトシティの形成」「ウォーカブルなまちづくり」「スマートシティ」等のまちづくりの専門化、高度化、多様化が進む一方で市町村単独でまちづくりを進めていくことが厳しい状況にありました。

UDC信州設立前に市町村を対象

に行ったアンケート調査においても、まちづくりの専門的な職員の不足や、まちづくりの相談対応、専門家による支援を求める声が多く挙げられました。

市町村と県のまちづくりの役割

地方分権一括法施行後、県としても、広域的な観点における県の役割は何かを考え、長野県の地域資産である自然環境や農山村景観の保全・活用も含め、信州の魅力を市町村と一緒に引き出していくこととしました。そして市街地から田園・山間地域までの県土全体を包括した都市計画に関する



方針を示した「長野県都市計画ビジョン(2004年5月)」を策定し市町村・県民と共有しました。

さらに、制度ありきで都市計画を運用するのではなく、地域に相応しい「まちのかたち」を見出し、地域の課題解決方策の担保として都市計画を活用することを追求し、非線引き都市計画の新しい活用や合併を契機にした線引きの廃止などを行いました(豊科都市計画区域線引き廃止2006年12月)。また各市町村が抱える地域の課題の把握と県のノウハウの共有のため都市計画キャラバン(2004年4月～)を行うことでまちづくりにおける市町村と県のコミュニケーションを深めてきました。

UDC信州の設立

都市計画、まちづくりとしての県の取組をさらに進め、多様化するまちの課題にどう対応し長野県にあったまちづくりを進めるには

- ・全国統一仕様型のマクロな視点に加え、地域の個性を生かしたミクロな視点の強化
- ・「公」がほぼすべてを担うことは困難であり「民」と協働で「学」の知見を借りながら進める体制

が必要であることから、以前、横浜市でアーバンデザインセンターの立ち上げに関わった阿部知事からの後押しもあり、公民学連携のまちづくり拠点であるUDCの設立の検討を開始しました。

広域的な視点を持って市町村と県が協働しながらまちづくりを進めるとの重要性から、県が主体となり全国初の広域型UDCとなる「信州地域デザインセンター(UDC信州)」の設置を目指すことにしました。

信州地域デザインセンターの設置に当たり県の総合計画にあたる「し

あわせ信州創造プラン2.0～学びと自治の力で拓く新時代～(2018年)」に位置付けると共に、「信州地域デザインセンター設置検討委員会(以下設置検討委員会)(2018年5月～2019年3月)」を立ち上げ「信州地域デザインセンター(UDC信州)」の創設と有り方について検討を行いました。

全4回の設置検討委員会を通してUDC信州の設置目的や基本理念・目標、対象地域、まちづくり支援の項目や市町村との役割分担、組織体制、設置場所などの議論が行われました。設置検討委員会で議論された内容は現在のUDC信州のまちづくり支援の基となり、まさにUDC信州の骨格となる議論を行いました。設置検討委員会での議論のとりまとめ後、UDC信州は2019年8月に全国で20番目のアーバンデザインセンターとして設立されたと共に、県が中心となり設置した初めての広域型UDCとなりました。



信州地域デザインセンター開所式
(2019年8月7日(水))

UDC信州のセンター長は設置検討委員会からご協力いただいた出口先生にお願いし、出口敦センター長のもと、同じく設置検討委員会からご協力いただいた信州大学の林先生、柏の葉アーバンデザインセンターの三牧氏には副センター長をお願いしました。またUDC信州のオフィスに常駐するメンバーは県職員2名と都市再生機構の職員1名の計3名の体制でUDC信州はスタートしました。多くの市町

村からのまちづくり相談に対応するため、後に常駐する職員数は3名から6名に増員されました(2024年時点)。

設立当初からUDC信州の3つの基本理念(・連携により新たな価値を創る・空間の質を向上する・未来を志向する)とそれに基づく3つの活動(支える、育む、発信する)を取組の軸としてまちづくりを行っています。



第11回アーバンデザインセンター会議 in 信州
(2023年11月25日(土))

おまけ【UDC信州幻のロゴ!?】

設置検討委員会ではUDC信州のロゴマークも検討しており、当時の資料を見返していたところ仮案としてこんなロゴマークを発見しました。

素早く飛び回り、前にしか進まないトンボをあしらい、県内を飛び回りまちづくりを前に進める決意を表していたようです。3色のグリーンは今のUDC信州ロゴマークにも継承されています。



支える

【活動内容・実績】

駅前広場の利活用・整備、まちなかの回遊性向上、観光地再生、空き家活用、スマートシティの検討など様々な相談を受けこれまで20案件60市町村のまちづくりの伴走支援を行ってきました。

【成果と課題・今後の展望（個別支援プロジェクト）】

成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> 伴走支援を継続してきた結果、ビジョン策定・プラットフォーム組成・社会実験等が実現し、市町村のまちづくりの取組みが着実に進んでいます。 <p>⇒ビジョンの実現やプラットフォームの運営など新たな課題に面对している市町村も多く、また定期的な新規相談もあり引き続き伴走支援が必要です。</p>
今後の展望	<ul style="list-style-type: none"> 市町村の支援ニーズに合わせた伴走支援の継続

【成果と課題・今後の展望（広域支援プロジェクト）】

成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> 複数の自治体にまたがるエリアにおいて、自治体や民間事業者が参画する広域的な視点でまちづくりを検討する場を設置、運営することで広域的なまちづくりや市町村間の連携が強化されました。 広域シェアサイクルのケースでは、広域の効果検証等をUDC信州が担うことで事業組成貢献し、コンソーシアムの組成においても、中心的な役割を果たしました。 <p>⇒広域検討の場はできたが、具体的な事業や空間整備までの事業構築の推進が必要です。</p>
今後の展望	<ul style="list-style-type: none"> 事業組成や空間整備を見据えた広域検討プロセスの構築、関係者協議の実施

【個別プロジェクトのその後】 支援終了した案件について、その後の状況をヒアリングしました。

しなの鉄道線沿線地域の回遊性向上プロジェクト（支援期間 R3～R5）	<p>毎月実施し、情報を共有したり、各種データからサイクルポートの追加や変更などを行ってきました。令和4年度は、利用者が令和3年度の2倍以上に増えたなど、徐々に地域交通のひとつとして定着してきました。</p> <p>この社会実験を含む沿線全体の取組みが評価され、一般社団法人プラチナ構想ネットワークが主催する第10回プラチナ大賞において、優秀賞（広域資源活用賞）を受賞いたしました。</p> <p>実施にあたっては、各市の関係部局、観光協会などが集まる定例会を</p>
奈良井まちづくりプロジェクト（支援期間 R3～R5）	<p>動き出すための対話の場「奈良井ラボ」を両輪で実施しました。①全住民アンケートは8割を超える高い回収率を達成し、住民の意向等を精度高く明らかにすることことができ、②奈良井ラボでは、多様な世代・属性の住民がフラットに対話できる場づくりの工夫を凝らし、ワールドカフェや、中学生の案内によるまち探検、先進地視察など全6回を開催し、UDC信州はこれらの活動を支援しました。</p>

現在の動き	<p>3年間の社会実験を経て千曲市、上田市両市ともに、令和6年度より広域シェアサイクル事業が正式導入されました。社会実装1年目となった令和6年度においては、上田市では利用者、回転数なども大きな伸びを見せ、より一層市民に定着してきていることが窺える一方、需要に対し自転車が不足しており、自転車の台数増が課題となっている状況です。また「別所線×シェアサイクル公共交通利用促進社会実験」を通じて、上田電鉄別所線との連携により、シェアサイクルの公共交通としての立ち位置をより明確化していくことが求められています。</p>
-------	--

現在の動き	<p>令和5年度に「町並みに生きる」をまちづくりのキャッチコピーとして掲げ、令和6年度には、奈良井の魅力を活かしつつ、暮らしやコミュニティを未来に繋げていくための指針をまとめた「奈良井ビジョンブック」を作成しました。今後は、このビジョンブックの内容を基に、地域住民や関係者と連携しながら、具体的な活動や取り組みを継続的に実践していくことが求められています。</p>
-------	--

育む

【活動内容・実績】

まちづくりに関する様々なテーマの概念・事例等について、幅広く市町村職員が学ぶ機会を提供してきました。市町村職員のまちづくりリテラシーの向上に寄与することができました。

まちづくりセミナーを16回開催し、延べ約480人が視聴・参加（設立からR6末まで）

回	テーマ	講師等
1	公共空間の使い方	(株)ワークヴィジョンズ 西村氏
2	新しい移動手段とまちづくり	トヨタ自動車(株) 北村氏 等
3	ウォーカブルエリアの創造と新たなまちづくりプロセス	(有)ハートビートプラン 泉氏
4	チヨイソコ視察	(株)アイシン精機 等
5	災害に強いまちづくり	あいおいニッセイ同和損保(株)等
6	災害に強いまちづくり	信州大学地域防災減災センター 菊池氏 等
7	企業版ふるさと納税	内閣府地域活性化伝道師 曽根氏 等
8	まちづくりにおける交通	東京大学大学院新領域創成科学研究科 特任教授 中村氏
9	官民連携のまちづくり	(株)WAKUWAKUやまのうち 中尾氏
10	官民連携のまちづくり(長門湯本温泉)	長門湯本温泉まち(株) 木村氏 (株)日本海コンサルタント 片岸氏
11	土浦りんりんロード視察	土浦市職員等
12	社会実験の心得	アーバンデザインセンター大宮
13	ウォーカブルとは	日本大学理工学部建築学科准教授 泉山氏
14	金沢に学ぶまちづくりの取組	金沢市職員等
15	前橋市の行政職員に学ぶ公民連携	前橋市職員
16	実践型まちづくりセミナー@伊那市	(株)ワークヴィジョンズ 西村氏 他3名



▲第12回セミナー社会実験の心得



▲第14回金沢に学ぶまちづくりの取組

【成果と課題・今後の展望】

成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> これまで計16回開催し、市町村職員の知識習得につながり、参加者からも一定の評価が得られています。 <p>⇒得た知識を現場に落とし込むには、実践型の企画力育成が必要です。</p>
今後の展望	<ul style="list-style-type: none"> R5年度は、現地視察、フィールドワーク型セミナー、UDC全国会議の長野県開催など、新しいことに挑戦し、R6年度は2日間の実践型セミナーを実施し参加者からも一定の評価が得られていました。 <p>⇒市町村の組織内において周りを巻き込みながらまちづくりを推進していくキーマンの養成が必要です。</p>

発信する

【活動内容・実績】

- 信州のまちづくりに係る情報を集約し、様々なメディアを通じて発信してきました（詳細はP32参照）
- 活動報告書の作成・関係者への配布
 - 毎年度その年度の成果をまとめた活動報告書を作成しています。
 - 市町村、つながりのある民間事業者・専門家などに配布し、新たな相談依頼のきっかけにもなっています。
 - 国、他自治体、民間と様々な視察がきており、各種メディアにもとりあげられております。

【成果と課題・今後の展望（広域支援プロジェクト）】

成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> 他県職員、議会、国機関、民間事業者など、多くの方が視察に訪れており、注目度があがっており、新たなネットワーク構築のきっかけにもなっています。
今後の展望	<ul style="list-style-type: none"> 様々な媒体で発信することによって、一定程度の成果（まちづくりの情報集約と提供）を上げることができました。※R6は、しな鉄、レイクリゾート、実践型セミナーが、地元紙やテレビ等に掲載 <p>⇒これまで、Webサイト、Facebookを中心に発信してきたが、若い世代に向けてInstagram等を活用した積極的な発信が必要です。また新聞、テレビ、ラジオ等の既存媒体での情報発信も注力が必要です。</p>

- SNSをさらに活用するとともに、マスメディアにも積極的にアプローチしていく

発信する

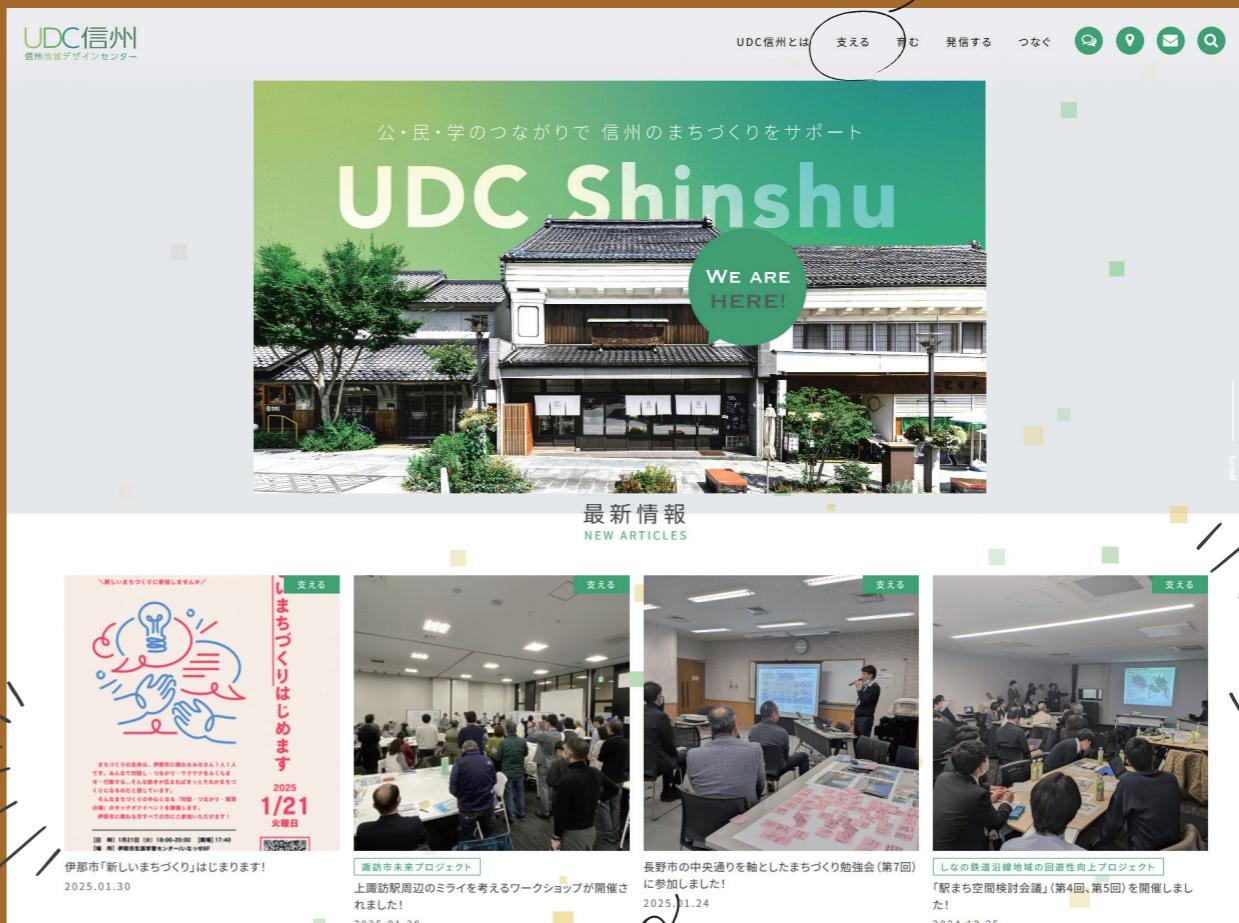
MEDIA

UDC 信州

発信する
MEDIA

UDC信州の公式WEBサイトを紹介します！

進行中のPJ
詳細はこちら



週に1回程度の頻度で UDC 信州の活動や県内外のまちづくり情報を発信

公式WEBサイト

- ・令和6年度 39,617 view
- ・発信コラム数 27コラム



公式SNS

facebook

Instagram



公式メールマガジン

- ・毎月最終金曜日に配信 (全12回)
 - ・メールマガジン登録者数 931名
- ※新規登録は右のQRコードからお願いします。



おわりに UDC信州スタッフより

常駐スタッフ

チーフコーディネーター 矢口 (長野県)

令和6年度は、私も含め常駐のメンバーの約半数の入れ替わりがあり、1年間まちづくり支援の活動をおこなってきました。この1年間、まちづくりに携わっている色々な分野の方々とお会いし活動する中で、まちづくりの中心には、まちを愛し活動されている多くの方がいて人と人がつながって、まちづくりが成り立っていることを実感しました。これからも、色々なつながりを大切に共創し、快適で居心地の良い空間・賑わいのある場の創出を進めていきたいと思っています。関係された多くの方々に感謝申し上げます。

コーディネーター 羽生田 (長野県)

UDC信州では、しなの鉄道線沿線のまちづくりに取り組んでいます。令和6年度は市町村と民間企業が一同に会し、県内外の事例研究や、しなの鉄道線各駅の特徴の洗い出し、駅と駅周辺の構想案を議論してきました。まだまだ夢物語な部分もありますが、各駅の特徴を踏まえた構想ができつつあると思います。何より、このような場を設けることがまちづくりの第一歩になっていると思います。引き続き、関係者の皆様と居心地のよいエリアを目指して活動していければと思います。



センター長 出口 敦 (東京大学)

まちづくりに関して、都市や地域の抱える諸課題の解決し、持続可能な都市や地域の実現に向け、デジタル技術を活用して都市の機能を最適化し、人々の生活を向上させるスマートシティの取組みが各所で進められております。また、情報通信技術を活用したワーケーションや移住についても多くの方に高い関心を寄せて頂いており、自然豊かで潤いがあり賑わいもある場所、快適で居心地の良い空間で過ごしたいという想いを抱いている方が増えているように感じております。UDC信州は、そのような想いがより具体的な取り組みにつながるよう公・民・学の構成団体や市町村と連携し、引き続き、「場」の創造を県内各地で進めてまいります。



副センター長 林 靖人 (信州大学)

昨今、全国各地でオーバーツーリズムが問題視される一方で、観光の維持すら困難な地域も現れています。観光は裾野の広い複合産業であり、地域づくりにおいて重要な役割を担っていますが、持続的な発展には、変化に対して「適応力」をもったマネジメントが不可欠です。人口規模に依存した従来型のビジネスモデルは限界を迎え、「明確な正解が存在しない」時代に入っています。この状況を、新たな地域づくりや観光モデルの構築に挑戦するチャンスととらえ、皆さんとともに取り組んでいきたいと考えています。



副センター長 三牧 浩也 (東京大学)

もう4年目となった下諏訪町のグランドデザイン策定プロジェクト。下諏訪宿エリアに続き、今年度、湖畔エリアも完成しました。このアウトプットの面白さは、「ウォーリーをさがせ！」のごとく俯瞰図いっぱいに描かれた人々の姿。つぶさに見ていくと、描かれた人たちがしていること、見ているもの、歩いていく方向、ひとつひとつに意味があります。ワークショップを積み重ねて出された様々な「場面」を形にしていくための実証実験も始まっています。ぜひ皆さんも一度じっくりご覧ください。

スタッフ
より

常駐スタッフ

チーフコーディネーター 矢口 (長野県)

令和6年度は、私も含め常駐のメンバーの約半数の入れ替わりがあり、1年間まちづくり支援の活動をおこなってきました。この1年間、まちづくりに携わっている色々な分野の方々とお会いし活動する中で、まちづくりの中心には、まちを愛し活動されている多くの方がいて人と人がつながって、まちづくりが成り立っていることを実感しました。これからも、色々なつながりを大切に共創し、快適で居心地の良い空間・賑わいのある場の創出を進めていきたいと思っています。関係された多くの方々に感謝申し上げます。

サブチーフコーディネーター 石川 (長野県/UR都市機構)

UDC信州の一員となり、あっという間の1年でした。市町村からの相談案件のほか、UDC信州ならではの取組みである広域案件として、「しなの鉄道線沿線地域の回遊性向上PJ」に関わってきました。今年度は、沿線自治体や民間企業に参画いただいた「駅まち空間検討会議」を実施し、各駅の特徴や周辺状況から課題を掘り下げ、まちの拠点として駅周辺に人が集まり、賑わいを生むにはどうすれば良いか、参加者で議論して妄想案を取りまとめました。これからも居心地の良い空間整備につながるよう、取組んでいきたいです。

コーディネーター 調 (長野県)

UDC信州に参画して丸三年。主に東北信にかけた地域の担当をしてきて、少しずつですが新しい取り組みにチャレンジしてきています。今年度は「駅まち空間検討会議」を担当し、しなの鉄道線沿線の自治体の方や、民間企業の方と共同で空間検討を行いました。これまで広域観点で地域のことを考えきましたが、具体的な駅を題材に検討することで地域のことをより深く考える貴重な機会になっています。鳥の目・虫の目という言葉がありますが多面的に地域を見る目を養い、地域のまちづくりに貢献したいです。

コーディネーター UR都市機構



令和6年度はUDC信州の特色を生かした広域プロジェクトについて、「しなの鉄道線沿線地域の回遊性向上PJ」をはじめ、その進め方、内容について議論を深めることで、より良い検討内容とすることができます。また、個別地区では、みんなの楽しげが感じられる駅前空間の実現に向けて、ウォーカブルの推進、回遊性向上のための社会実験を通じて、駅前広場の再編に向けた検討を進めることができました。UDC信州での6年間の活動の中でも、着実に成果に向けて歩みを進めることができた1年だったと実感しています。URは、引き続きUDC信州の一員として長野県のまちづくりを支援していきます！

コーディネーター 竹内 (長野県)

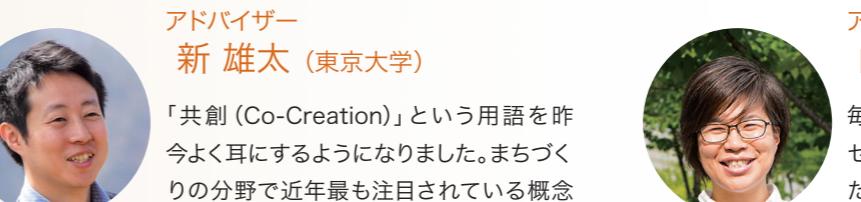
今年度は、主にレイクリゾート創造プロジェクトをメインで担当しました。いろんな方の意見を吸い上げて、それをまとめて、さらに実行に移していくことの難しさを感じた1年でしたが、湖畔を「居心地の良い空間」にするために何ができるかを、地域の方々と本気になって考えることができる貴重な機会となりました。これでUDC信州を離れますが、ここで得た知識や経験をもとに、今後も何かまちづくりに携わる機会が持てればと思います。3年間本当にありがとうございました。

コーディネーター 唐沢 (千曲市)

2年間県内各地の多くの皆様からご指導をいただきまして、本当にありがとうございました！UDC信州に配属された当初は、各地の優良事例をそのまま踏襲すれば、ある程度の賑わい創出、魅力度向上等が期待できるものと思っていたが、現代では、地域の特色を活かしていかなければ生き残れないということをこの2年でつくづく感じました。千曲市に戻ってからは、地元の声を大切にする、誰よりも千曲市に詳しい尖った職員を目指し、千曲（クセ）のあるまちに変えていきます！

アドバイザー 新 雄太 (東京大学)

「共創 (Co-Creation)」という用語を昨今よく耳にすることになりました。まちづくりの分野で近年最も注目されている概念の一つであり、ここ1年ほどNTT東日本様と一緒に小布施町を舞台に開講しているカレッジを通じて実証的に研究しています。関与の度合いに幅のある関係人口のなかでも、つくり手となる「共創人口」への注目です。UDC信州の活動の軸である公民学連携を指向する基盤であり、体制的な座組に留まらず、関わる主体それぞれの共創意識がいかに育まれるのか。その共創性の測定を取り組んでいます。域内外の多様なアクターがイノベティブに活躍する共創まちづくりが今後益々重要になると考えています。



アドバイザー 山下 裕子 (まちなか広場研究所)

毎日を帰属意識をたかめあうためのプロセスのように感じたいと考える昨今。そのためには領域感を創ることも肝要に感じていた。鉄道軌道はその背骨になりえ、それが理に叶っていることの実感を得た「しなの鉄道沿線地域の回遊性向上プロジェクト」。隣接していても、空間と時間と共に有しても、育まれていないことが多い関係性。その関係性が「資本」であることを実感する場面も増えてきた。まさにソーシャル・キャピタル。自治体の皆様同士が関係性を深めている雰囲気にお邪魔し、あたたかい気持ちに。有り難く。

UDC信州

信州地域デザインセンター

8:30~17:15 (土・日・祝祭日休)

〒380-0832

長野県長野市東後町16-1 2階

TEL 026-405-4861

MAIL info@udcshinshu.jp

WEB <https://udcshinshu.jp>

◆ @udcshinshu ◆ @udcshinshu

長野駅より徒歩16分

※お車でお越しの際は、近隣のコインパーキング等をご利用ください。



◀公式WEBサイト

